



全日本私塾教育ネットワーク

# 私塾ネット広報

<http://www.shijuku.net>

第13号（平成18年2月号）



梅の香や 雪の枝より 漂える

私塾ネット 副理事長 梶原 賢治

# 私塾ネット関東 ニューイヤーパーティー

## 私塾ネット関東事務局長 渡辺浩

1月29日日曜日、朝から雲ひとつない晴天の下、待ちに待った私塾ネット関東「NEW YEAR PARTY」がお台場『CAFE LABOHEME』（カフェ ラボエム）にて行われました。この「NEW YEAR PARTY」は、～主役は家族！～という事で日頃塾長を支えてくださっているご家族の皆様をご招待し、レインボーブリッジの夕焼けと夜景を楽しみながら食事やゲーム、ギター、ダンス、ビンゴなどで盛り上がりましょうという企画でした。そもそもこの企画の発案は、私塾ネットセンター事務局長N先生（個人情報のため固有名詞は避けさせていただきます）のご家庭で起きた『夫婦喧嘩』がきっかけだったのです。日頃家を留守にしがちなN先生に業を煮やした奥様が「毎回毎回私塾ネットとっているが、それなら私塾ネットの先生たちに一度ご挨拶をさせなさい。」とおっしゃられ、それがどういうわけか、私（私塾ネット関東事務局長 渡辺浩）の所にその話が入り、「それであればちょうど新年会も兼ねて、いっそのこと大きな家族会を催したらどうか」という事になったのです。返事はもちろんOKでした。理事長の谷村先生や、関東代表の鈴木先生をはじめ、関東定例会にご参加いただいた全員の先生のバックアップを受けてこの会が行われる次第となりました。



開場は4時、受付は3時半からということでご案内したところ、皆さん相当楽しみにしておられたので、3時半前に数十名の先生が早くも会場に来られました。そして、パーティー会場の『ラ・ボエム』に足を踏み入れた途端、しばしの絶句。この会場はお台場の象徴でもある「レインボーブリッ

ジ」が真正面に独り占めできる絶好のロケーションでした。昨年1月に行われました私塾ネット中国研修大会、その時に訪れた鞆の浦のホテルから見た瀬戸内海もとても印象的でしたが、この東京の景色もその鞆の浦に勝るとも劣らない大変眺めの良い景色でした。そうこうしているうちに先生方やそのご家族の皆様が続々のご来場され、皆様お好きな飲み物を片手に早くもご歓談が始まりました。そして、出席者は大人39名、高校生4名、小学生4名、幼児4名の合計51名を迎え、石川先生の総合司会で始められました。まずは私塾ネット関東代表の鈴木先生より開会の挨拶がなされました。代表はこの会が行われるまでに至った経緯やきっかけなどを話し、何よりもご家族の皆様に来ていただいたことを本当に喜んでおられました。日頃どうしても先生同士だけのお付き合いになりがちなこの業界で、このような家族を迎えてのパーティーが出来る私塾ネットを大いに称えておられました。

## 会員塾と私塾ネットの発展を祈り、乾杯～！



続いて乾杯ですが、ココが私塾ネット関東、何と谷村理事長の奥様、谷村和枝先生に乾杯のご発声をお願いしました。さすがは和枝先生、突然のご指名にもかかわらず、現在の教育問題や学習塾に関わる諸問題にも触れられ、一同乾杯の運びとなりました。食事の方ですが、大人から子供まで楽しめるようにビュッフェスタイルで皆様色々な料理を召し上がっていただきました。カルボナーラ、ナポリタン、ピザ、フライドポテト、ソーセージ（ちょっと辛かったかな？）、サラダ等々、欲を言えばデザートが欲しかったですよね。加藤先生。

しばし料理を楽しんでいた後、早速第1の催し「クイズ大会」が行われました。司会は私、渡辺が行いました。このクイズ大会は通常のクイズ大会と違い、ただ問題を出して答えるだけではなく、クイズに正解すると豪華景品（？）がもらえるという、まさに「私塾ネット太っ腹クイズ大会」というものでした。問題は「童話『ジャックと豆の木』で、ジャックが豆を手に入れるために引き換えにしたものは何でしょう？」とか「『赤毛のア



ン』が大人になって就く職業は何でしょう？」といった大人から子供まで応えられる簡単なもので、次々と正解をされていました。そして、皆さん100円ショップで買った豪華景品を手に入れていました。誰もがこんな簡単なクイズ間違えるわけがない！と思った次の瞬間、「夏目漱石の小説『坊ちゃん』の主人公は何の教科の先生でしょう？」「ハイ、ではこちらから当てます。では、、佐藤先生」「えーっと英語だったかな？」「ブー」初の不正解でした。正解は「数学」。この結果佐藤先生はお手つきということで次の問題は答えられませんでした。とても悔しそうにしている佐藤先生が印象的でした。



仲野事務局長のお子様による空手の演技

クイズが終わり、しばしのご歓談。続いてはエンターテイメントの部という事で、まずはNPOボランティアの会より、佐藤先生始め私塾ネット会員でもある先生方の協力の下、紙飛行機を飛ばしました。これには小さいお子さんたちも皆喜んでいました。さらに、魔方陣のお土産付きということで、尚一層喜んでいました。次に仲野先生のご子息による「空手の組」の披露、小学校5年生の娘さんと小学校4年生の息子さんが見事に演じてくれました。そして、お父様、仲野先生によるアコースティックギター生演奏が催されました。仲野先生は、『Let it be』を始め、英語の教科書に載っている曲を演奏し、素晴らしい歌声をご披露されました。また最後には『上を向いて歩こう』を全員で合唱しました。

第3部は最後のお楽しみということで「理事長ビンゴ」が行われました。「理事長ビンゴ」というのはもちろん、われらが理事長、谷村先生の司会によるビンゴ大会です。その景品も何と、「ポータブルDVDプレイヤー」「ディズニーリゾートペアチケット」「折りたたみ自転車」「デジタルオーディオプレイヤー」など合計20本、総額で10万円を越すこちらは正真正銘豪華景品でした。ビンゴが始まると皆さんが大変驚かれたのは理事長のあまりにも上手な司会進行、あまりにも上手すぎるので理事

長に伺いだした所、昔、このような仕事をなさっていたとか・・・でも本当にプロでした。さて、ボールが次々とはじき出され司会の饒舌なりズムに乗って、まずは1番乗り、碇塾の三田先生がビンゴとなりました。次に平林先生、そして、私渡辺の妻、また、碇先生ご自身、さらに監物先生がビンゴとなりました。さあこの5人が出揃った所でこのビンゴのおもしろい仕組みが披露されました。通常ですとビンゴは揃った方から1位・2位と決まっていますが、それだとももしろくないという事で、先ほどの5人の方が再度トランプのカードをひき、その数と一致する景品（最初から景品には番号札が付けられておりました）が貰えるというものでした。この仕組みには一同大盛り上がり、何と1位のDVDは三田先生が当たり、2位のディズニーチケットは碇先生が当たりました。ものすごい強運ですね。今年は気をつけてください。そして、3位の自転車はすいません、私の妻が当てました。誤解の無いようっておきますが、決して出来レースではないですよ。最後に4位と5位のオーディオプレイヤーは平林先生、監物先生がお当てになりました。また来年もこれに負けず豪華景品を用意して、また大いに盛り上がりましょう。そうこうしているうちに早くも終わりの時間が近づいてまいりました。後は最後の挨拶、、、と思いきや、びっくりイベントとして、いぶき学院の山本先生と私渡辺によるダンスの披露をいたしました。曲はEXILEの『Choo Choo TRAIN』、およそ1ヶ月前から練習していた成果を皆さんの前で披露いたしました。最後は私がフラフラになってしまい、みっともなかったのですが、山本先生は見事に踊りきっていました。

こうして、楽しかったパーティーも最後は理事長の挨拶で幕を閉じました。この会を開催するに当たってご協力いただいた諸先生方、心から御礼申し上げます。これからも家族を大事にする会でありたいと心から願います。また来年、今度は100名のご参加を期待したいですね！



東京湾を背景にくつろぐ会員の先生方とご家族

**パソコン教育推進協会副理事長 川畑卓也**

東京私塾協同組合の研修会及び全日本学習塾連絡会議が平成17年12月4日(日)池袋ホテルメトロポリタン3Fにおいて実施されました。今回研修会をパソコン教育推進協会が任され、教育関連IT企業10社の協力を得実施しました。

パソコン教育推進協会参加者は碓理事長、石川、浅野、川畑、岡本、副理事及び理事、平林事務局

**研修会場でIT企業の説明を熱心にお聞きになる先生方**

長の、5名午後2時30分準備開始、午後4時研修会開会 各企業5分のプレゼンテーションその後各ブースでフェイスツウフェイスで説明を聞き5時55分閉会しあとかたづけ。

その後200名を超える塾団体合同忘年会。

ゆとり教育の弊害である学力低下、次年度中学校教科書改訂、不景気や少子化、それに加えパソコン、インターネットの急激な普及により教育システ

**パソコン教育推進協会 理事長 碓 優先性の基調講演**

ムの変化を余儀なくされるところです。もちろん子どもに対しての教育で普遍的なものもありますが、教育に携わる人々は今後どのようにしようかと迷うにも等しく考えさせられる昨今です。次の一手を模索し他塾との差別化のため、生徒保護者の為、IT企業も塾人も、そして私立学校の先生も今回の教育関連

IT研修にこぞって大きな関心を寄せていました。

パソコン教育推進協会の会員の皆様は、普段からパソコンは塾で利用されていると思いますが、今後ますますパソコンの活用は、塾にとって強力な武器として役立つものであることを実感されるフェアでした。



会場を埋め尽くした出席者の皆様

私たちが普段目にしない学校用の学習ソフトなど安価でいいものがたくさんありました。パソコンの活用は、学力向上だけでなく、生徒の募集にも威力を発揮します。

ITの活用により、元気のある塾にしていきましょう。

研修会の中身は全面的にお任せという中、パソコン教育推進協会としては教育IT企業10社に協力を頂き充分にその責務は果たせたと見受けられました。



IT企業の営業の方から機器の説明を聞く出席者



## 情報展・合同新年会

私塾ネット広報部長 鈴木正之



私、2005年情報展の実行委員長、2006年新年会の実行委員ということで、「内側（私）から見た情報展と新年会」として、2006年の情報展と新年会の様子を報告させていただきます。内容にはほとんど触れておりません。

『塾に役立つ情報展 IN 東京』新宿NSビル・イベントホール

主催：NPO塾全協・全国学習塾協同組合（AJC） 私塾ネット協賛

恒例の「塾に役立つ情報展 IN 東京」が1月16日に開催された。情報展は教材、教具を始めとした教育や塾に関連する企業が集い、毎年この時期に開催



される。主催は「学習塾団体合同新年会」と同様にNPO塾全協と全国学習塾協同組合で、1年ごとに交代で運営される。今年の当番団体は塾全協である。「塾生に安全と安心を」と題して開催された2006年の情報展。会場内や受付は「防災設備は万全ですか」、「塾へ通う子ども達への安全・安心・信頼確保」、「用事・児童をねらう犯罪が急増」等の

ポスター。そして、受付では学習塾への防犯アンケート。出展企業にもセコムや総合警備保障の防犯関係の企業が名を連ねた。今年は中学校の教科書改訂の年であり、例年ならば教材会社の改訂された新しい教材の展示がメインであり、各教材会社の活気ある呼び込みが目立つのであるが、少しおとなしい雰囲気だった。

しかし、今年は出展企業が昨年より多く（出展企業52社、ミニセミナー9社）集まったことは何よりである。今後は益々来場する学習塾関係者にとって



も、出展企業にとっても身のある情報展を実行していくことが大切で、来場者と出展企業が増えていくことを期待している。もともと、情報展はイベントホールの大ホールで行われていたのだが、出展企業が減り中ホールでこのところ行われていた。昨年、今年と徐々に企業数が増えてきていることは、塾業界にとっても歓迎することではないだろうか。情報展が大ホールで開催されるようになれば、塾業界も大いに盛り上がるだろう。実行委員長のNPO塾全協、斉藤先生ご苦労様でした。実行委員の皆さん有難うございました。



左より当協会全国仲野事務局長・渡邊先生・長江会計次長・浅輪先生

学習塾団体合同新年会』京王プラザホテル

主催：全国学習塾協同組合（A J C）・N P O塾全協  
私塾ネット協賛

参加者数...約200名（学習塾50名、私立中高150名）

1. 開会のあいさつ（森理事長）
2. 来賓挨拶（下村衆議院議員）
3. 塾団体紹介（代表として社団の石井会長が挨拶）
4. 鏡開（協力企業）
5. 乾杯（声の教育社、小泉専務）
6. 参加私立中高紹介
7. 余興（ダンス）
8. お楽しみ抽選会
9. 閉会



当番団体は全国学習塾協同組合で、私塾ネット会員が理事に4人いる。谷村理事長、田中（宏）研修部長、浅輪先生と鈴木である。最近の塾関係の集まりには、私塾ネットのメンバーが目立つ。それは、この新年会でも同じだ。受付の準備が忙しいと見ると、私塾ネットのメンバーの仲野（センター事務局長）、渡辺（関東事務局長）、長江（関東副代表）がお手伝い。浅輪先生と私も受付担当でしたが、3人の活躍がなければ一斉に来た200名の出席者に対応できなかった。仲野先生、渡辺先生、長江先生有難うございました。さて、新年会ですがここでも私塾ネットのメンバーが活躍しています。総合司会の谷村理事長は毎度ながら、みごとな会の進行。私学紹介では田中（宏）研修部長が担当。谷村先生との息はぴったり。私塾ネットのメンバーの活躍の中で、私が失敗。塾団体紹介で私塾ネットは理事長が総合司会のため、私が壇上に上がるようになっていた。ところが私は受付にいて呼ばれたのに気づかないで後から駆け上がる。お楽しみ抽選会では、今年も仲野センター事務局長がDVDをゲット。これで3年連続の大当たり。私は仲野先生と1番違いで10年連続のはずれだった。実行委員長のA J C高嶋理事ご苦労様でした。

番外編『二次会&三次会』

二次会は新年会と同様に京王プラザホテル。部屋は42階で夜景がとっても綺麗だった。参加者は約40名。実行委員長の斉藤先生と高嶋先生への感謝の会ということで行われた。斉藤先生は欠席で残念だったが、高嶋先生はこの後、三次会までお付き合い下さった。カラオケやおしゃべりで大変盛り上がった。



三次会は場所を移して、新宿駅付近の居酒屋だった。参加者は、東洋高校の斉藤校長先生と紅一点の浅輪先生、そして徳島の楠山先生、もちろん谷村理事長を含め、合計12名。12名の内、私塾ネット会員は6名とここでも半数を占める活躍ぶり。三次会でどんな会話をしたのか記憶がない。しかし、楽しかったことだけは確かだ。居酒屋を出て気が付いたら山手線の品川駅だった。又、1年が始まる。今年も色々な事件や災害があるだろう。社会情勢、学習塾業界、自塾の経営・・・どうなるかわからない。どんな形にせよ新年会で顔を合わせられる事は幸せである。来年も、皆さんの笑顔に負けない笑顔で会えるようにしたい。今年もよろしく願いいたします。



後列左より鈴木先生・浅輪先生 A J C川畑理事  
前列左より谷村当協会理事長・A J C玉城専務理事・森理事長





# 私塾ネット中国 塾長研修会

## 塾の危機を探る WILL TO REVIVE

**私塾ネット中国 塾長研修大会**  
**2005年11月13日(日)**  
**於 ホテル鷗風館(広島県福山市)**  
**主催 全日本私塾教育ネットワーク中国**



基調講演を熱心に聞き入るご参加の先生方

全日本私塾教育ネットワーク(谷村志厚理事長)は中国エリア主催で、11月13日(日)に第1部から第5部までの塾長研修大会を開催。2006年4月、鳥取県に中高一貫校を開校する板根徹・伝習館代表による基調講演や、会員塾塾長らによる「塾の危機感をえぐる」と題したリレー発表が行われた。会場には中国・四国エリアを中心に約80名が集まり、発表者が紹介する具体的事例に真剣に耳を傾けた。(今回は1部と2部を取材)

私塾ネットは、北海道から九州まで全国8カ所のエリアで活発な研修活動を展開している。今回は中国エリアにて塾長対象の研修会が開催された。会場にはベテラン塾長に交じり、次代を担う若い先生方の姿も多く見られた。

研修会は、私塾ネット中国の代表である北川健治氏(栄光プレップ)が司会進行を務め、実行委員長の佐藤将紀氏(広島若竹塾)による開会挨拶で幕をあけた。

佐藤実行委員長は「参加者の協力なくしては研修会を成功に導けない」と語り、続いて挨拶に立った

私塾ネット四国代表の湯口兼司氏(湯口塾)も若い世代に向けて「プログラムされた研修だけでなく、経験豊富な先生方にアドバイスを求めるなど、一人ひとりの

研修を大切にしていきたい」と語りかけた。

その後、山口恭弘・私塾ネット会長より、第1部「基調講演」の講師である坂根徹氏の紹介がなされた。

坂根氏は鳥取県で学習塾や予備校を展開する伝習館の代表。2006年4月、鳥取県東伯郡湯梨浜町に長年の夢であった中高一貫校を開校する。

山口会長は、「私塾ネットからは鹿児島島の池田学園、富山の片山学園に続く3番目の学校設立。塾業界全体で応援していきたい」と語った。

**第1部「新日本海時代をつくる湯梨浜学園設立の渦中で」見果てぬ夢を追いかけて!**  
**伝習館代表・湯梨浜学園理事長 坂根 徹氏**  
 [湯梨浜中学校・高等学校が目指すもの]



本校の開校予定地である湯梨浜町は鳥取県中央部に位置し、はわい温泉や東郷温泉のある風光明媚な土地です。この町は2005年10月1日に東郷町・羽合町・泊村の3町村が合併して誕生しました。新町名の「湯梨浜」は、町の特色である「温泉・二十世紀梨・砂丘」を表しています。

学校の校舎は、旧東郷町の廃校となつた小学校を利用。初年度は中学校 30人・高校40人を募集します。教師陣は、子どもの学習塾や予備校から優秀なスタッフを選抜しました。いずれも面倒見がよく、成績アップに力を発揮している者たちです。

私たちは教育目標として、「科学技術立国を支え、国際社会に貢献できる人材の育成」を掲げています。

今は子どもたちが夢を持ってない時代と言われていますが、私は司馬遼太郎さんの「坂の上の雲」のような、夢や目標に向かって生きる素晴らしさを伝えたいと考えています。

そのため土曜日を「総合学習デー」とし、大学の先生方や経済人など外部講師による講座を設定。子どもたちが早い段階から夢や目標を持てるよう、動機付けをはかります。

もちろん大学進学にも力を入れていきます。当面の目標は、国公立・難関私大へ生徒の60%が現役合格を果たすことです。

鳥取県では、国公立大学への現役合格者数で高校が評価されています。昨年度は、県立倉吉東高校の卒業生240名のうち135名が国公立大に現役合格しました。約56%です。県立鳥取西高校は、400名中195名の約49%でした。本校は3年後の、県内トップレベルを目指します。

ところで全国的に見た場合、鳥取県の教育状況は決して芳しいものではありません。

駿台予備校のデータによると、前回のセンター試験の総合科目平均点で、鳥取県は36位でした。1位は東京。2位以下は、神奈川・奈良・大阪・京都の順です。東京と鳥取では、900点満点で86.5点も差があります。

また鳥取大学合格者のうち地元出身者の占める割合は、20年ほど前は40%を超えていましたが、徐々に減少し、今は15%程度にまで下がっています。

湯梨浜学園設立には、このような状況に、一石を投じたいという思いがありました。

### 〔3度目のチャレンジで実現〕

今回の湯梨浜学園設立に至るまでに2度の挫折を経験しています。

最初は10年ほど前。倉吉市の西隣にある北条町

の農地を買収し、準備運動を進めました。町も乗り気だったのですが、少子化で高校の統廃合計画が持ち上がったこともあり、県の私学審議会で一蹴されてしまいました。

2度目は、2000年です。現在は鳥取市に編入されている旧鹿野町で、三つの小学校が統廃合されることになり、そのうちの1校を借り受ける計画でした。しかし、県教育委員会が適応指導教室として利用することになり、借りることができませんでした。

そして今回が3度目のチャレンジ。東郷町の小学校が統廃合されることを知り、「だめもと」で町に設立計画書を出したのです。と同時に慎重に準備を進め、2004年6月に無償の賃貸契約を結ぶことができました。その後9月に申請書を提出。11月に設置認可証が交付されました。

鳥取県は少子化が進み、私学はいずれも厳しい状況にあります。新たな学校設立には困難が予想されました。しかし、現知事の片山知事が非常に教育熱心な方であることが幸いでした。それに、隣の岡山県で朝日塾中学が開校されるなど、私たちの思いが受け入れ

られる土壌ができていたのかもしれませんが。

少子化という現実はやはり厳しいものがあります。しかし、見方を変えればチャンスともいえま。廃校を利用できるのもそのひとつでしょう。私どもの例を参考に、皆さんにもぜひチャレンジしていただきたいと考えます。

続いて第2部は、3人の先生方によるリレー発表が行われた。

トップは、いくえい塾の岩石忠臣総塾長。2003年度に日本漢字能力検定(漢検)の団体の部に初挑戦し、いきなり第1位の座に輝いた。

続いて芸城学院の域忠道顧問。実践から編み出した独自の算数指導法を伝授した。

アンカーは田中学習会の田中弘樹塾長。生徒数の伸び悩みや塾生のトラブルなど、塾を運営していく上で起こりえる危機への対応策を紹介した。

第2部 リレー発表「塾の危機をえぐる」生き残りをかけた塾経営の問題点を斬る



**漢字検定日本一の塾****いくえい塾・総塾長 岩石忠臣氏**

当塾は現在、広島県内に9校舎を展開。生徒数は小学生から高校生まで、およそ1200名です。

漢検に挑戦したのは、塾として対外的にアピールできるものが必要だと考えたためです。英検や数検ではなく漢検を選んだのは、団体としての表彰制度が確立していたからです。それに、以前より塾内でイベント的に漢字コンクールを実施していましたので、取り組みやすいこともありました。

私たちは漢検の「最優秀団体賞」もしくは「優秀団体賞」を狙うことにしました。最優秀団体賞は、年間受験者数が300人以上で合格率上位1位から20位まで。優秀団体賞は21位から170位までが該当します。

漢検は年間に3回試験を実施していますが、私たちは秋の第2回検定日に照準を合わせ、春から受検体制を整えました。受検対象者を小学4年生から中学2年生までとし、対策用プリントを配布。毎月、模擬試験を実施して合格可能性をチェックしました。9月上旬には漢検過去問を使って予選会を行い、一定以上の成績を上げた生徒を選抜。漢検を受検させました。

その結果、受検者308名のうち300名が合格。97.4%の合格率で、学習塾部門トップの成績でした。

皆で「最優秀団体になれたね」と喜んでると、その年から文部科学大臣奨励賞が新設され、合格率90%以上で、かつ第1位の団体のみに贈られるとのこと。当塾は初挑戦で文部科学大臣奨励賞を受賞することができたのです。

その翌年の2004年も同様の受検体制をとりま

した。378名が受検し350名が合格。合格率92.6%の成績で2年連続の受賞を果たしました。

今年は10月29日に324名が受検し、現在は結果待ちの状態です。

毎年300名以上を受検させ、合格率90%以上を確保するには、教える側も多大な労力が必要です。しかし、その成果は非常に大きいといえます。

**次世代に伝える、算数道40年****芸城学院・顧問 城忠道氏**

芸城学院は広島県西部から山口県東部にかけて教室を展開しています。

私は今年、塾暦40年を迎えたのを機に算数の勉強会を始めました。次世代に対して、これまで培ってきたノウハウを伝えようというものです。

皆さん、今日は芸城学院に入ったばかりの小学生です。これから算数の授業を受けてください。

当塾のコンセプトは「面白くなければ塾じゃない」。ですから、算数の授業も学校とは少し異なります。

広島には有名なもみじ饅頭がありますが、芸城学院にもおいしい幻のマンジュウと幻のおむすびがあります。

それは、 と です。このマンジュウとおむすびを使って次の問題を解いてみましょう。

(1) 次の と の値を求めなさい。

$$+ = 45$$

$$+ = 57$$

二つの式の和と差を見ることで と の値がわかります。これを小学4年生の時からきちつと教え込んでおくと、次のような文章題も苦もなく解けるようになります。

(2) 鉛筆2本とノート3冊の値段は440円で、同じ鉛筆4本とノート3冊の値段は520円でした。鉛筆1本、ノート1冊の値段をそれぞれ求めなさい。

鉛筆を  $x$ 、ノートを  $y$  とすると、

$$2x + 3y = 440$$

$$4x + 3y = 520$$

の数が2個多くなると80円高くなっていますから、 $x$  は40円。とすると  $y$  は120円になります。

$x$  と  $y$  を利用して、小学6年生の比例や倍数変化の問題にも対応できます。

(3) はじめに姉と妹の所持金の比は4対3でした。姉が600円、妹が300円使ったところ、姉と妹の残りの所持金の比が5対4になりました。はじめに姉と妹が持っていたお金は、それぞれ何円でしたか。

姉と妹の所持金の比を図で表すと、

$$\text{姉} \quad - 600 =$$

$$\text{妹} \quad - 300 =$$

$x$  や  $y$  をいくつも書くのは面倒ですから、以下のように表します。

$$\text{姉} \quad - 600 = 5$$

$$\text{妹} \quad - 300 = 4$$

後は処理の仕方を教えるだけです。

$x$  を20に揃えて、書き直します。

$$\text{姉} \quad - 2400 = 20$$

$$\text{妹} \quad - 1500 = 20$$

ここから  $x$  1個が900円であることがわかります。姉ははじめに  $x$  を4個分持っていたのですから3600円。妹は  $x$  3個分で2700円です。

このようにマンジュウとおむすびを使えば、子どもたちは面白がって問題を解きます。

これから学習塾を担っていかれる若い先生方にも、子どもが楽しめるような教材を工夫したり、新しい教え方を発案していただきたいと思います。



## 塾の危機感を問う

田中学習会・塾長 田中弘樹氏



私が今「危機感」を感じているのは、主に3点です。それは 生徒数や売上げの伸び 生徒のトラブル 社員のトラブル。

生徒数や売上は、当塾は10年前から順調に伸び続けているように見えます。確かに全体としては伸びているのですが、教室ごとに見ていくと、2002年ごろから以前のような勢いを感じられなくなりました。また4月段階での入塾者が減ってきています。

これは、評価制度が絶対評価に変わったことによります。以前であれば10段階評価で「4」だった子どもが、5段階評価で「3」になっていますから、保護者は安心してしまうのです。

そこで当塾では中学1年段階から保護者会の回数を増やし、高校入試の実情や将来はどのような能力が必要とされるかを説明するようにしました。その時にベースとして話しているのが、当塾の教育理念です。学習塾が学力を伸ばすのは当然ですが、学習を通じて

子どもたちの意志を鍛え精神力を培いたいと考えています。塾で学ぶ1日1日を、その子どもの人間的成長のために手助けしたいということを保護者に伝えています。

生徒のトラブルとは、塾に責任のある事故などを指します。

当塾では、授業などで生徒の帰りが遅くなる場合、保護者の希望に応じて教師が車で自宅まで送っています。送っていくと保護者が喜ぶだけでなく、子どもとのつながりも強まりますから、子どもは道を踏み外すことなくよい方向に育ってくれます。

それに退塾もありません。もちろん、事故には十分注意させています。



また最近多くの塾で導入されているメールシステムを当塾も利用しています。以前は授業の終わる時間になると、塾舎の前に母親の迎えの車が何台も並んで近隣とトラブルになることもありました。しかしメールシステムを導入してからは、母親たちは少し離れた場所で待機していて、退出のメールが送られてから迎えにくるようになり、トラブルもなくなりました。

そのほか、私が心配しているのは個別指導担当の大学生講師と生徒の個人的な交際です。そのため非常勤講師を採用する際には、生徒と個人的な連絡はとらないという誓約書を書いてもらっています。

さらに、個人情報の取扱いにも十分に注意しています。当塾ではPマークを取得し、規定に則って社員教育を徹底しています。

社員のトラブルについて。

今、急いで作業を進めているのは、就業規則、労働条件の整備です。

ここ数年、学習塾に労働基準監督署の調査が入るケースが増えています。当塾はこれまで週の労働時間が70～75時間にも上っていました。明らかに問題ですから、来期からは年間基本労働時間が2085時間になるモデルをつくりました。一般的な危機感としては税務調査があげられると思いますが、当塾は企業理念に「納税の義務を果たす」と入れて正しく納税していますので危機感はありません。前回の税務調査は、ある日突然5人もの調査員がこられました。何が問題もありませんでした。

ほかにも横領、造反、セクハラ等々、今後起こらないとは限りません。しかし、基本的には社員を信じながら対処していく考えです。

最終的には、塾長としての私の資質。これが一番の危機感かもしれません。会社は社長の器以上には大きくならないといえます。私自身が人間的に大きく成長していきたいと考えています。

この後、第3部では社団法人全国学習塾協会会長の石井正純氏への感謝の式典が行われた。私塾ネット中国代表の北川氏が「一兵卒からの感謝状」を読み上げ、盛大な拍手の中、山口会長より感謝状および記念品が贈呈された。さらに第3部、第4部と会場を移しての懇親会や夜を徹しての討論座談会などが行われた。

ルックデータ出版「塾ジャーナル」2006年1月号より



私塾ネット会長 山口先生と社団法人全国学習塾協会会長石井先生



社団法人会長への感謝の式典で花束を受け取る石井正純先生



研修会后全国から参加した先生方と記念撮影



長時間にわたった研修会の後くつろいでの懇親会



### 私塾ネット四国代表 湯口 賢司

《役員、代表者会》 三月十二日(日)

予定場所 湯口塾研修センター

午前11時～午後3時

議題

- 1、2006年度総会について  
5月14日(日)(塾長職員教科研修in四国)予定
- 2、10月8日(日)全国学習塾協会《塾の日in徳島》とのジョイント秋の研修会について
- 3、2005年度 仮決算報告及び2006年度予算案について

私塾ネット四国では本年度総会及び秋の研修会に於いて役員以外の方の実行委員を募集しています。なかなかお会いする機会も少ないので是非多数のご参加をお待ちしています。

参加していただける方は湯口塾 湯口(0875-72-3262、もしくは090-7147-8271)まで連絡してください。皆さんにお会いするのを楽しみにしています。

### 私塾ネット関東代表 鈴木正之

私塾ネット関東、過去2年を振り返り

当塾は、東京都品川区にあります。品川区と言うと、「小中学校の学区撤廃・学校選択制」を全国で最初に導入、さらに来年度からは「小中一貫教育制：4・3・2制」を全区で開始、独自の指導要領が作成されており、それに基づいた授業が開始されます。その本当の狙いはわかりませんし、来年度からどうなるのかもわかりません。発表されたときは、大変なことになったと思いましたが、情報が入って来るに連れ、大きな変化はないのではないかと考えております。今は、臨機応変に対処できるような体勢をとりつつ、様子を見るというのが来年度の戦術かと思えます。全国の地方自治体も品川区の様子見をして、同様の試みを開始することは間違いありません。品川区の小中一貫制につきましては随時報告させていただきます。

さて、私が私塾ネット関東の代表をさせていただき2年が経とうとしています。やってみて思うことは、「思うようにいかない」です。「思うように」

というのは、活動(研究研修・交流懇親・協同共同・その他教育活動、対行政等)をしたい会員が活動できる組織づくりです。どこの学習塾団体も抱えている事かもしれませんが、動ける人、動く人が少ないということです。元気な塾が少ないこと、塾長の高年齢化も原因のひとつと考えます。ただ、その学習塾団体の中で私塾ネットは動ける人、動く人が多い団体であることは確かです。その人達を上手く組織できていない、上手く活かしていないということであると思います。ある程度自由にできる組織であるということは、活動に一貫性がないということにもなります。来年度以降は、目的を明確にして、体系立てた活動計画を立て、一貫した活動を行っていくべきであると考えます。

そのためには、ベテランの先生方の経験と横の繋がりを活かすことと、若い先生方の参加、活躍が望まれます。特に会の活性化には、2代目、3代目の先生方がどんどん参加すること、新しい会員を増やしていくことが必要です。そのためには、若い先生方が参加できる催し物を実施することは必要です。私塾ネット関東ではU-40(アンダー40:40才以下の先生の会)や研修会も職員の先生方が参加できるものを実施してまいりました。これは継続してやっていくべきであると思います。問題はその会にいかに参加していただくかということです。役員も工夫し考えていくことはもちろんですが、会員の先生方には“2代目、3代目の参加”をお願いしたい。そして、共に元気を与え合い、良いところを盗み合い、元気を与え合うことができればと思います。塾長だけが集まりなくさめ合ったり、懇親を深めるだけの会であっては、自塾の未来はありません。自塾の未来がなければ、子ども達の未来も、日本の未来もありません。私塾ネット関東は会員塾の懇親を大切にしながら、会員塾の発展、そして日本発展まで考えていくべき団体であり、それは私塾ネット全体の目的でもあるはずで

私塾ネット関東の代表をやってきて、この2年間多くの先生方に助けられました。多くの人に出会いました。人のありがたさを感じながらやってまいりました。あまりにも感謝をしたい方が多いので名前を出し切れません。みなさん有難うございました。この2年間を踏まえて、私ができることをやっていきたいです。



## 投 稿 記 事

### 私塾ネット四国 会員 そがめ塾 十亀幸雄

書評 仲野十和田 著『人を勝たせる』  
ナカジユク 2005年6月 B6版54頁

1 本書は、ナカジユクの指導法（教育）と塾運営（企業）のそれぞれを5つの章に分けて書いたものである。本書の大半を占めるのは前者の「教育」である。

第1章の「教育理念」では、仲野十和田の教育理念を形成したいくつかの出会いについて書かれている。その1つは高知明德高校から学んだ「基幹学力」である。松澤幼稚園では体験学習のもつ大切さを知り、小学低学年の指導に取り入れている経緯が書かれている。「失敗の経験も恐れない。」はここから学んだとされ、本書の底流に流れる筆者の考えの1つである。

第2章の「教育目標」では、ナカジユクの教育手法が述べられている。人の学力は期待されることによって上がっていくというビッグマリオン効果や、コーチング（コーチされる側から考える）手法、自然体験学習もまた重要な手法の1つとして紹介されている。

第3章の「企業理念」では、「企業は人なり。」が評価される時代になったとし、そのための研修の重要性を述べている。

第4章の「企業目標」では、居心地のよい会社づくりを掲げている。

第5章の「人を勝たせる」は本書の題にもなっている言葉であるが、仲野十和田の最も底流にある「人に仕事をまかせて、成長を見られるのは幸せである。」ことについて書かれている。あとがきでも、同じ趣旨の「私が教室展開を選んだのは、私と同じレベルでともに喜び、共に悩む人（教室長）を求めたからです。」と書かれていることからみると、これが本書のテーマ、ナカジユクのキーワードであることが察せられる。

2 本書を読んでまず感じたことは、非常に多岐にわたり書かれている点である。視点が1つに固定しておらず、複眼的な見方をしていることに驚いた。このような複眼的な視点は、多くの職員の実践や立案から本書がなっており、仲野十和田がそれら

をすべて許容している現実からきたものであることがよく示されている。まさに、本書の題「人を勝たせる」ことの反映である。本書全体にそれがよく浸透している。

私は、本書を最初読んだとき非常に戸惑いを感じた。本書の項目は多岐にわたり、悪く言えば雑然と、しかし未整理の宝が山積みされている感じを当初受けた。私は、普段に県誌や町村誌を好んで読んでいる。県誌と町村誌はかなり趣がちがう。町村誌は、町の物知りが書いたものか、町の様子が隅々まで雑多に、まるで話すように書かれている。私は後者が好きだ。後者には、1つの視点であれば切り捨てられたであろう事柄がそのまま書かれているからだ。本書はそのような同じ感じを受けた。複眼である本書には私が紹介した以外の塾のキーワードもたくさん掲載されている。自塾にあった事柄を見つけ、実践するのに向いている。だから宝の山と言ったのだ。

最後に本書を読んで二、三気づいた点があった。章が終わったところで改頁する点や写真も使ってほしかった。また、ビッグマリオン効果などの参考文献名なども知りたかった。もっとも、こうした点があるからといって本書の価値を下げるものではなく、多くの塾の塾長・職員にとって、必読の一書であることはもちろんである。



# 各 部 報 告

## 渉外部報告

次長 加藤 実

平成17年12月5日(月)

日本女子大学西生田生涯学習センターホールにおいて、公開イベント「生きいきワクワク体験の集い」が開催されました。午前中は「教育ボランティア養成講座・体験活動模擬実習」ということで、日本女子大学田中雅文教授による「教育ボランティア活動の基礎」の講演、その後模擬実習として「ミニプラネタリウムを作って、キラキラ輝く星座を見よう」を実験工房あつぎ西畑正夫所長が指導。

午後1時から「生きいきワクワク体験の集い」を開催。ミニプラネタリウム作り、スーパーライダー飛ばし、「中嶋教授の楽しい天文教室」(一橋大学大学院中嶋浩一教授のお話)がありました。

平成17年12月10日(土)

英語スピーチコンテストが「藤沢市産業会館」で午前9時～午後2時実施されました。9月の予選会に参加した350名の中から選ばれた中学各学年各10名の素晴らしいスピーチが披露されました。

平成17年12月12日(月)



平成17年度第5回「自然・社会体験学習支援活動セミナー」が「厚木市文化会館」小ホールにおいて午後4時45分から午後10時まで開催されました。参加者は小学生・中学生・高校生・保護者など約350名。主催はNPO法人全国教育ボランティアの会。文部科学省・厚木市教育委員会・海老名市教育委員会・愛川町教育委員会後援、東京電力株式会社・社団法人全国学習塾協会・全日本私塾教育ネットワーク・全日本学習塾連絡会議協賛。独立行政法人福祉医療機構「子育て支援基金」助成事業。

前半は「科学講演会」ということで「人の命を助ける新発想のマイクロマシンとロボット」というテーマで名古屋大学大学院工学研究科マイクロナノシステム工学専攻生田幸士教授が講演。

平成17年12月18日(日)



松戸市女性センター「ゆうまつど」において、「生きいきワクワク体験 親子の集い」が開催されました。主催はNPO法人全国教育ボランティアの会。文部科学省・松戸市教育委員会の後援、東京電力株式会社・社団法人全国学習塾協会・全日本学習塾連絡会議・県認可千葉学習塾協同組合・NPO法人塾全協・私塾ネットの協賛。独立行政法人福祉医療機構「子育て支援基金」助成事業。

午前中は「自然・社会体験活動支援セミナー」が29名のボランティアの参加を得て実施されました。

午後1時から「生きいきワクワク体験・親子の集い」が100名近くの親子の参加を得て開催されました。たわしにモーターを付けて走らせる「タワッチ君」(究理学研究所池田佳代先生・塚本浩司先生指導)、「ミニプラネタリウム作り」(実験工房「あつぎ」西畑正夫所長指導)、「中嶋教授の楽しい天文教室」(一橋大学大学院中嶋浩一教授指導)など楽しい「ものづくり」やためになるお話がありました。

平成17年12月21日(水)

衆議院第2議員会館「第一学習室」において午後1時から「学習塾・安心安全のための緊急集会」が行われました。司会進行は学校教育支援調査会松田邦道幹事長。出席者は下村博文衆議院議員、経済産業省商務情報政策局サービス産業課山本勝紀大臣官房企画官、文部省生涯学習政策局生涯学習推進課萬谷宏之室長、社団法人全国学習塾協会石井正純会長、同じく稲葉秀雄専務理事、民間教育連盟森本 一会長、東京私塾協同組合岡田保雄理事長ほか、青森県・徳島県・福岡・愛知県・広島県など全国から有志48名。子どもの安全についての各塾での取り組みについて熱心な意見交換がなされました。

平成18年1月15日(日)

新宿NSビル地下1階展示ホールにおいて「塾に役立つ情報展」が午前11時～午後4時開催されました。18年度は中学校教科書が改定されるので、その関連教材が目玉になった模様。また同日「新宿京王プラザホテル」4階「扇」の間において「塾団体合同新年会」が午後5時～7時開催されました。



## 事務局便り

センター事務局長 仲野十和田

私塾ネットが設立され、早5年。右も左もわからないまま、エリア関東の事務局を仰せつかり、次年度からはセンター事務局に。塾業界の事務局と言っても過言ではない佐藤勇次先生の後任ということもあって、かなりのプレッシャーでしたが、多くの先生方に支えられ、何とかここまでやってこられました。

さて、今年度の私塾ネットの入会者が現在のところ正会員6名、賛助会員5名と過去最高となりました。ご存知の通り、私塾ネットは収益事業やその他営業活動があまり上手な方ではないと思います(私の責任ですが)。では「私塾ネットの良さは何だろうか?」とふと考えてみたところ、昨年「エリア中

国での研修」や1月の「ニューイヤーパーティー」でも痛切に感じたことですが、「人の温かみ」です。センター事務を任せていただいた当初、失敗ばかりしている自分に当時の山口理事長から「いいじゃないですか」「気にせんでいいですよ」「やったらいいですよ」といつも励ましていただき、どれほど勇気付けられたか知れません。現理事長(谷村先生)は、兄貴のようで本当に頼りになります。

3月で所定の任期を迎えますが、この仕事ができたと誇りに思っています。数々のご迷惑をおかけいたしました。陰ながら見守ってくださっていた会員の皆様へ感謝申し上げます。今後ともよろしくお祈りいたします。

閑話休題 理事長 谷村志厚

バブル崩壊後の平成不況も、ようやく長いトンネルから脱しようとしているようです。大手企業での春闘のベアアップや有効求人倍率の1倍超えなど、景気回復への芽吹きが伝えられています。では我々の業界はいかがなものでしょうか、まだまだその感触を実感できないのが現実のようです。

経済産業省は、平成16年1月から塾業界の月例産業動態調査を始めました。そのおり私塾ネット会員塾にも調査協力をお願いしたので、現在も毎月の調査に協力をされている塾もあるかと思えます。当塾も立場上16年の1月から毎月のレポートを継続しています。送られてくる統計月報に目を通すと、塾業界のマクロな経済動向が垣間見えます。2月9日、17年12月の速報がだされ、平成16年、17年と調査期間2年のデータがそろいました。そこで、今号の誌面をかりて最新の分析をお伝えしてみましょ。

まず毎月の調査項目は次の5項目です。常用従業員数及び講師数、月間売上高、受講生数、事業所数、そして売上高及び雇用の四半期見通し。これを毎月20日までにレポートすると翌月10日前後に速報値が公開されます。

下表では学習塾ほか関連の2業種を抜粋してみました。上

段は調査実数を下段は前年・前期比較を示しています。この調査では学習塾年間売上3261億、事業所(教室)数6900ヶ所を補足しています。学習塾全国5万教室と言われるから、調査数は実数の2割弱ですが、大手塾の構成率が高いので、売上げ的には5割を超えているものと推測できます。この調査のポイントは下段の比較データにあります。17年度、学習塾は調査項目すべてで前年比5%を越える伸び率を記録しています。日本のGDP伸び率が2%前後であることを考えれば、高水準であることに驚かされます。さらに他の2業種と比べるとその比率がいかに高いかが分ります。外国語会話教室においては、売上高は通年で前年を下回っており、厳しい経営環境がみてとれます。

ところで、学習塾のこの高ポイントに実感をお持ちでしょうか。たしかに数値的には上向いているのは事実でしょう。首都圏を席卷している中学受験ブームからも、業界全体は追風の中にあるとはいえるのでしょう。しかし、私塾ネット会員の多くの位置する地域塾には、その恩恵が届いているとは言えないようです。どうやらこの順風は、いまのところ大手塾に向かって吹いているように思われます。我々もこの流れを逃さないよう、切磋琢磨、研鑽努力をいたしましょ。

### 学習塾

		売上高	受講生徒	事業所数
		(百万円)	(人)	(平均)
16年		307,826	9,445,570	6,444
17年		326,178	9,960,337	6,933
17年	1~3月	76,726	2,375,810	6,617
	4~6月	67,679	2,281,602	6,707
	7~9月	95,020	2,586,779	6,829
	10~12月	86,753	2,716,146	6,933

### 前年比・前年同期比(%)

17年	1~3月	105.5	104.8	106.7
	4~6月	105.1	104.2	107.2
	7~9月	107.3	106.3	107.9
	10~12月	105.6	106.4	107.6
	平均	105.9	105.4	107.4

### 外国語会話教室

		売上高	受講生徒	事業所数
		(百万円)	(人)	(平均)
		130,013	8,392,206	3,170
		119,133	8,583,478	3,418
		37,522	2,135,938	3,298
		26,367	2,153,505	3,379
		30,991	2,147,711	3,425
		24,254	2,146,324	3,418

		92.5	103.5	106.4
		84.4	102.7	108.1
		97.0	101.9	108.2
		92.4	101.1	107.8
		91.6	102.3	107.6

### カルチャーセンター

		売上高	受講生徒	講座数
		(百万円)	(人)	(平均)
		32,518	6,313,892	2,298
		32,835	6,455,607	2,370
		7,968	1,573,565	2,329
		8,513	1,642,934	2,372
		8,282	1,609,399	2,336
		8,072	1,629,709	2,370

		99.3	103.7	108.2
		99.7	101.6	105.0
		102.3	102.0	101.8
		102.7	101.8	103.1
		101.0	102.3	104.5

## 賛助会員一覧(順不同)

**関東国際高等学校** 03-3376-2244  
 〒151-0071 東京都渋谷区本町3-2-2  
 村山 ヲドヲ先生  
**江戸川学園取手中学高等学校** 0297-74-8771  
 〒302-0025 茨城県取手市西1-37-1  
 竹澤 賢司先生  
**十文字中学高等学校** 03-3918-0511  
 〒170-0004 東京都豊島区北大塚1-10-33  
 卯木 幸男先生  
**東洋高等学校** 03-3291-3824  
 〒101-0061 東京都千代田区三崎町1-4-16  
 齋藤 元治先生  
**洗足学園大学付属第一高等学校**  
 03-3711-5751  
 〒152-0012 東京都目黒区洗足1-15-13  
 佐藤 慶一先生  
**桜丘中学高等学校** 03-3910-6161  
 〒114-8554 東京都北区滝野川1-51-12  
 品田 健先生  
**聖徳大学附属中等高等学校** 047-392-8111  
 〒270-2223 千葉県松戸市秋山600  
 川並 芳純先生  
**麹町学園女子中等高等学校** 03-3263-3014  
 〒102-0083 東京都千代田区麹町3-8  
 伊藤 暁先生  
**春日部共栄中学** 048-737-7611  
 〒334-0037 埼玉県春日部市上大増新田213  
 宇野 禎弘先生  
**大成高等学校** 0422-43-3196  
 〒181-0012 東京都三鷹市上連雀6-7-5  
 森 保先生  
**東京学園高等学校** 03-3711-6641  
 〒153-0064 東京都目黒区下目黒6-12-25  
 須藤 勉先生  
**東京立正中学高等学校** 03-3312-1111  
 〒166-0013 東京都杉並区堀ノ内2-41-15  
 藤井 教戒先生  
**八雲学園中学高等学校** 03-3717-1196  
 〒152-0023 東京都目黒区八雲 2-14-1  
 横山 孝治先生  
**関東第一高等学校** 03-3653-1541  
 〒132-0031 東京都江戸川区松島2-10-11  
 副田 康孝先生  
**武蔵野中学高等学校** 03-3910-0151  
 〒114-0024 東京都北区西ヶ原4-56-20  
 福澤 清一郎先生  
**神田女学園中等高等学校** 03-3291-2447  
 〒101-0064 東京都千代田区猿楽町2-3-6  
 後藤 久夫先生  
**和洋国府台女子中学高等学校** 047-371-1120  
 〒272-0834 千葉県市川市国分4-20-1  
 太田 陽太郎先生

**東京文化中学高等学校** 03-3381-0196  
 〒164-8638 東京都中野区本町6-38-1  
 上前 善勝先生  
**英数学館中学高等学校** 084-941-4115  
 〒721-8502 広島県福山市引野町980-1  
 和田 淳先生  
**文京学院大学女子中学高等学校** 03-3946-5301  
 〒113-8667 東京都文京区本駒込6-18-3  
 大久保 幸夫先生  
**京北学園** 03-3941-6253  
 〒112-8607 東京都文京区白山5-28-25  
 実方 隆志先生  
**大森学園高等学校** 03-3762-7336  
 〒143-0015 東京都大田区大森3-2-12  
 河嶋 正先生  
**東京成徳大学中学高等学校** 03-3911-2786  
 〒114-8526 東京都北区豊島8-26-9  
 増澤 文徳先生  
**日本工業大学附属中学** 03-3467-2130  
**日本工業大学附属東京工業高等学校**  
 〒153-8508 東京都目黒区駒場1-35-32  
 川村 文夫先生  
**青稜中学高等学校** 03-3782-1502  
 〒142-8550 東京都品川区二葉1-6-6  
 多々良 昭典先生  
**株式会社パイロットコーポレーション**  
 03-3538-3782  
 〒104-8304 東京都中央区京橋2-6-21  
 辻 豊様  
**株式会社教育企画ティーファイブ**  
 03-5479-7061  
 〒140-0001 東京都品川区北品川1-22-17  
 ニックハイム104号  
 山田 孝幸様  
**株式会社創開コミュニティー** 04-7164-6511  
 〒277-0005 千葉県柏市柏3-4-25 小溝ビル  
 小林 和光様

## 全日本私塾教育ネットワーク

**本部事務局**  
 〒173-0005 東京都板橋区仲宿53-10  
 ナカジユク内  
 TEL 03-3963-5572 FAX 03-3963-2529  
 Mail Address: jimukyoku@shijuku.net

**理事長 谷村 志厚**  
 〒270-2231 千葉県松戸市稔台63-21  
 A I M 学習セミナー内  
 TEL 047-368-2729 FAX 047-368-2189

**私塾ネット広報編集委員会**  
 〒120-0032 東京都足立区千住柳町14-12  
 青雲塾内